
夏の華

藤原 愛里

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夏の華

【Nコード】

N1726A

【作者名】

藤原 愛里

【あらすじ】

いつのまにか、独りぼっちだった。友達も、彼氏も、好きな事も……全てなくしてしまった、少女、リコ。彼女を救えるのは、一体、誰なのか……？

バイバイ。(前書き)

初めまして。藤原 愛里といいます。ここに掲載する、初の小説なので緊張していますが、頑張ります！

バイバイ。

いつだって、誰かが側にいてくれた。寒い夜は、そっと肩を抱いてくれる、暑い日は、寝付くまで扇子であおいでくれる……。そして、寂しい時に、何も言わずに隣にいてくれる、そんな人が。

—— 気付いたら誰もいなかった。暗闇に、一人、ぽつんと取り残されたような、そんな感じ。
そして、いつだって泣きながら目を覚ます。そんな毎日。

—— 私はリコ。坂口 梨子、14歳。とても普通の14歳だとは
いえない。私は< B >不登校児。< / B >
都立の中学校が嫌で嫌で仕方がなかった。何もかも、始まりは自分
があの一言を言ってしまったからだと言うことくらい分かっている。
でも、それには……。

私那不登校になってから、両親は私の事を見捨てた。世間体ばかり
気にするような、馬鹿馬鹿しい種族。元々、性格が荒く、頭も悪い
私に愛想をつかしていたのは知っていたけれど、とうとう捨てられ
た。そう思うと、ほんの少し、涙が出てくる、そんな自分が嫌で思
いつき頬を打った事もある。

今、私は遠い親戚の家にいる。ひどい田舎。コンビニも、ゲーセン
も、大きな店もない。

一日中、ぼうつと過ごす大体は涼しい縁側。ここで、遠くの山並を
見つめると、何故だろう、心が安らいでいく。

エツコおばあちゃん……平田 悦子さんは、私の面倒をよくみてく
れる。だんなさんはとうの昔に天国へ旅立ってしまったので、今は
独り身なんだそう。”おばあちゃん”って呼んでるけど、本当は血
がつながってるかどうかとも怪しい。

そんな私を目を細めながら見て『息子がいた時の事を思い出すよ』と、おばあちゃんはよくいう。

でも、分かっていた。また捨てられるって事を。

夏が終われば、私はこの町の中学へ行く。きっとそこでも……私は前と同じ過ちをおかすんだと思う。

ちりん、と風鈴がなった。

全部なくなっただから、今さら何を失うっていうの？自分に問う。そうだった……まだ失っていない物があつた。

それはなくしてはいけないもの。でも、なくせば何も辛くはない。

『……捨てよう。自分を捨てよう。何でも言う事を聞く、可愛い御人形さんになってしまえばいい。』

また、風が吹く。風鈴が風に煽られている。ぼうつと、その光景を眺める。

何も感じない人形になる、瞬間、私は別れを告げた。

『バイバイ。……坂口 梨子。』

——その日から、私は本当の暗闇に入ってしまった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1726a/>

夏の華

2010年10月8日21時28分発行